

平成31年度版 多忙化改善計画

山梨県立都留興譲館高等学校

No.	項目	現状と課題	H32年度に目指すべき状態	①H31年度に実施する内容 ②H32年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	・職員会議、学年会議、朝礼等で体制に影響のない質問、意見がある ・会議等の時間が長い	・諸会議が効率的に行われ、定時に終了する	①・資料の事前配布、事前検討を徹底する ・グループやメールでの連絡を活用する ②・年間行事予定の検討の中で会議等の回数を削減する	
2	学校行事の負担軽減	・精選が進められているが、内容が重複する行事や、同様の行事が学科毎に行われているなど、課題がある ・	・精選が進み内容の重複のない行事予定となっている ・各行事が、全職員の分担で実施されている	①・各行事の職員の負担を平準化する ・オープンスクール、学校説明会を1つの行事にする ②・廃止を含めた行事の見直しを進める（ボランティアスクールから救急救命講習を外すなど）	
3	校内組織の見直し	・各分掌の人員配置数や男女比に課題がある	・適材適所の人員配置がされ、業務内容も平均化されている	②・各分掌の業務内容を見直し、分掌間で重複がないようにする ・委員会等の統廃合など組織の見直しをする	
4	業務の効率化	・退庁時間の遅い職員が少なからずいる ・主任に業務が集中している分掌がある	・職員の時間外勤務が前年度より減少している ・業務の分担が適正化されている	①・分掌内の職員の業務分担を見直す ・月2回のきずなの日を完全実施する ・全職員が夏季休暇を5日完全取得する ・年休を積極的に消化する ・完全閉庁日の100%実施する ・管理職は出退勤記録で職員の勤務実態を把握する	
5	部活動の負担軽減	・部活動指導で週休日の出勤が多い職員がいる ・複数顧問配置がうまく機能していない部がある	・適切な部活動計画のもとに健全な活動が実施されている	①・部活動年間計画のとおり実施し、週休日等の指導時間が年間85時間を越える職員をなくす ・顧問間で指導日、指導時間をシェアする ・週2日の完全休養日や適切な活動時間を設定する ②・参加大会等の精選を進める	
6	地域人材の活用	・インターンシップに多くの企業から協力を得ている ・都留文科大学や産業技術短期大学校との連携が行われている	・社会に開かれた教育課程の理念のもと、地域の人材を巻き込んだ教育が実践されている	①・地元の企業や、関係団体との連携を進め地域人材の開拓をする ②・都留文科大学、産業短期大学校との連携を見直す	

※達成状況：次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村（組合）教育委員会へ提出する。

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった

※様式は、必要な項目が含まれていれば、適宜、変更して使用して差し支えないこと。